

国内外では、デジタル媒体に比べ、紙媒体が、文章の内容を深く理解するのに向くとの研究結果がでている。

イスラエルの小学5、6年生男女82人を対象にした研究

(2018年発表)では、複数の文章を紙とコンピュータ

ーで読んで問題に解答したと

ころ、紙の方が成績が良かつた。一方、アンケートでは、約6割の子供がコンピュータで読む」とを「好む」と答えた。

紙媒体の方が文章内容などの深い理解が得られるにもかかわらず、スマホなど手軽な手段で読みたがる傾向がみら

●識者が指摘する紙とデジタルの主な特徴



紙



デジタル

酒井邦嘉氏
(東京大教授、言語脳科学)

手書きメモや見開きページの位置関係は、内容を思い出す際の手がかりになる

画面上の位置が定まらず、記憶のための手がかりに欠け、記憶に残りにくい

川島隆太氏
(東北大教授、脳科学)

集中して学ぶトレーニングになり、脳を使う

デジタル端末を1日1時間以上使う子供の学力は極端に低い

マリアン・ウルフ氏
(神経科学者、米国)

ゆっくり読め、より集中できるため、脳の発達に望ましい

文字の大きさの調整や音声読み上げ機能は、障害児などの学習支援に効果的

アンデシュ・ハンセン氏
(精神科医、スウェーデン)

細部の読み取りや深い思考をしやすく、複雑な文章の読解に適している

必要な情報だけを取り出しながら、表面的で単純な作業に適している

紙媒体「読解力育む」

識者ら スマホの手軽さ 好む子供も

今年3月、東京大の酒井邦嘉教授(言語脳科学)の研究チームが、紙の手帳にスケジュールを書き留めると、電子機器よりも短時間で記憶できるとの研究結果を発表した。書いた内容を思い出す際の脳の活動も高まるという。酒井教授は、「紙の教科書やノートを使った学習の方が効果が高いとの根拠が示された」とする。

東北大の大森不二雄教授(教育政策)は、「読解力を育むには、紙がデジタルよりも優れているとの知見が既に複数ある。文科省も紙とデジタルの教育効果を科学的に比較、分析し、偏りのない施策を検討すべきだ」としている。